

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成26年1月31日現在

今月の重点活動

■ブロッコリー 年明け良品出荷に向けて目揃え会開催

J A ぎふブロッコリー生産連絡協議会は、1月7日に「老化した下葉の処理方法の変更」を周知するために2回目の目揃え会を開催した。昨年度と同様に、気候の影響を受けて生育は遅れているが、降雪がなく適期管理がなされていることから品質は良い。農業普及課は、商品率アップにつながる収穫適期の見極めに努めるよう働きかけた。



活力ある新産地づくり

■アスパラガス 新規ハウスの拡大

管内面積3haへの拡大を目標としているが、今年1月に退職者を含む2戸の新たな生産者が新規にハウスを建設し、アスパラガス栽培を開始する。農業普及課は、J A 等関係機関と連携し、品質の高いアスパラガスを「低コスト・省力」で生産ができるよう支援を行なっている。今後、この2戸のハウスを展示ほ場として位置づけ、遊休ハウスの所有者や団塊の世代の退職者などを対象に、アスパラガス栽培の現地説明会を開き、さらなる産地拡大を図る。



【羽島市建設中のアスパラハウス】

売れる農畜産物づくり

■水稻種子 良質種子生産の支援

羽島市産ハツシモ種子の精選が始まった。今年の搬入量からすると、十分な精選歩留まりがあり、契約数量は確保できる見込み。農業普及課は、今後確定する合格率を含めて採種組合員を対象に研修会を実施する。また、26年産用として管内に販売されるハツシモとコシヒカリの精選後のサンプルを入手し、昨年発生した低水温での催芽不揃いや高温条件での苗腐敗症の発生の有無について試験を行い、今後の育苗研修会の充実や育苗現場のトラブル回避に役立てる予定である。

■えだまめ 26年産にむけての育苗準備

26年産「岐阜えだまめ」の播種開始を控え育苗準備が進められている。農業普及課は、今月中旬以降各地で行われる栽培研修会において、農薬の安全使用、高品質、安定生産に向けた支援を行う。また、8月中旬以降の生産面積減少の一因となっているコナジラミ類の発生状況について、農業経営課、病害虫防除所と連携し、ハウスに設置した黄色粘着版による頭数調査及び周辺状況等について調査を開始した。



【コナジラミ類調査ほ】

■祝だいこん 売上4千万円達成

本年度は、当初著しく生育が遅延していたため、農業普及課では追肥やトンネル等被覆などの対策指導を行ってきた。その後、生育は概ね回復し、出荷量は69.8万本（過去3位）、販売金額は初めて目標の4000万円を達成した。トンネル被覆等により肥大や品質が良く、市場評価が高かったことによる。



【販売風景】

■かき 剪定士による間伐

柿振興会では一層の間伐の徹底のため、生産者の理解の上間伐を実施した。24人の剪定士が班編成し、真正地区を中心に約70haの間・縮伐を実施した。農業普及課は、真正地区で12月28日に縮伐樹の剪定講習会を追加開催し、重点的に間伐を指導した。



【縮伐樹せん定講習会】

■くり・山県市栗生産組合 剪定講習会開催予定

1月30日に、山県市栗生産組合では剪定講習会を開催した。室内研修では、農業革新支援専門員からくりの病害虫対策について、農業普及課から気象、生育と剪定について説明した後、中山間農業技術研究所による実技指導が行われた。今年度は、昨年と比べ選果場実績で「丹沢」は増収、「筑波」は昨年並み、「利平ぐり」は減収で、全体では多少の減収となった。また、全体的に収穫期が早まった。

多様な担い手の育成・確保

■野菜専門塾 26年度に向けて

「専門塾」とは、管内の重点振興作物の栽培者を育成するために開催している研修会の名称で、JAぎふ・農林事務所がスクラムを組み実施している。1月15日に野菜指導係で来年度の計画を検討した結果、募集対象は定年帰農者を中心とし、就業中に研修し、就農を検討できるように曜日、カリキュラムを組んでいく。今後、JAとの調整を行い、26年度につなげる。

魅力ある農村づくり

■能郷営農組合 能郷白山の郷営農システム研究委員会

1月9日に能郷営農組合、市、JA、農業振興課、農業普及課等からなる能郷白山の郷営農システム研究委員会により能郷地域の地域農業のあり方や活性化に向けた検討を行った。ムカデシバによる畦畔管理や徳山唐辛子の栽培等、営農組合の活動実績が報告され、能郷地域でこんにゃくいも等を栽培している(株)ユニオンの出席も得て、意見交換を行った。今後は能郷地域で農業を支える能郷営農組合、個人農家、(株)ユニオンの3者で連携をとって能郷地域の営農を盛り上げていく。